繪本月齊鄙物語　拾

ベ13
3154
10

特
へ
3154
10

所 福富町 市川兼次郎 三丁目

月宵鄙物語後誌巻第五

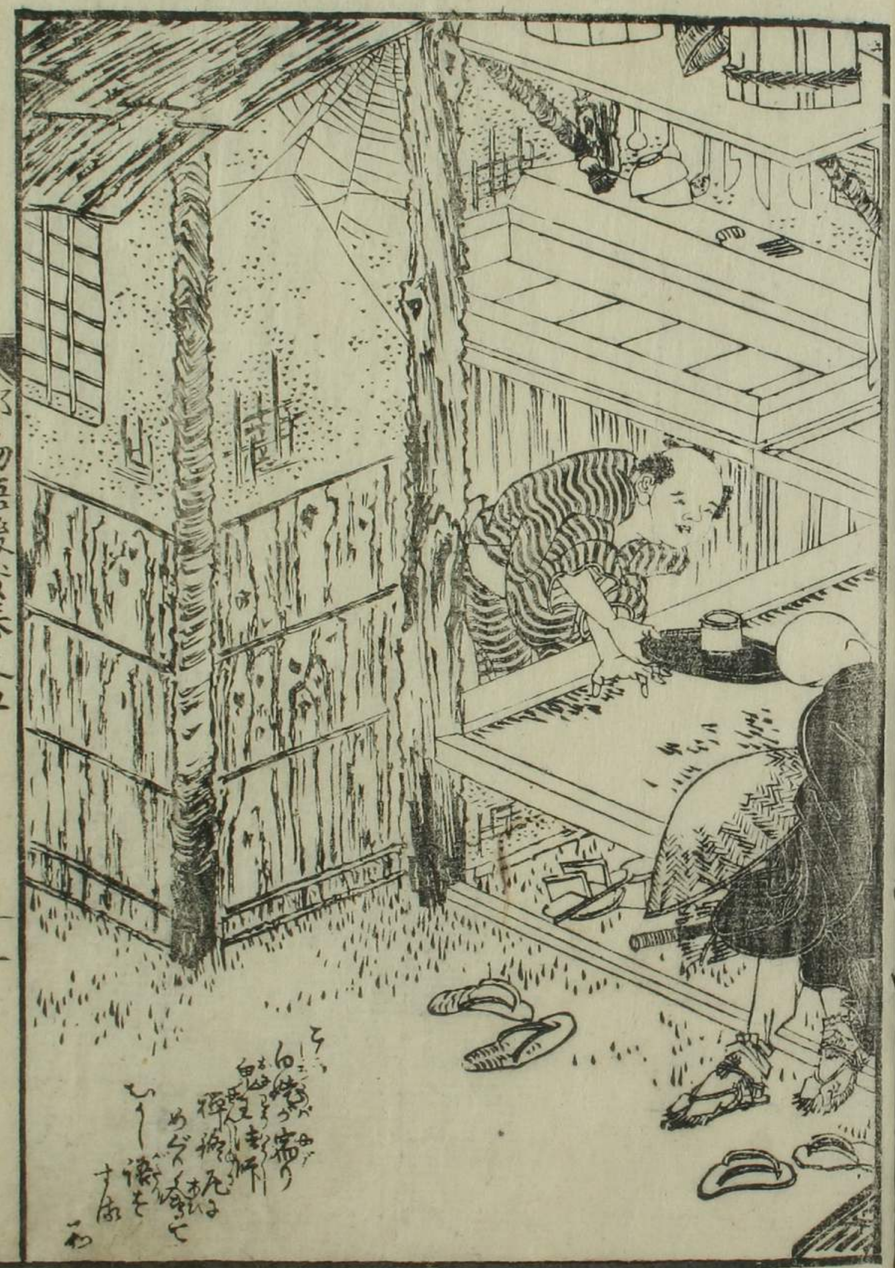
善光寺の常燈

江戸 桃李園 著

夫雪霜をかづく人の肩やとして汗ぬぐひ間紙くるまき寒しきもの乏しかるべし昆布ぐ
食むべき人の捨るものの紙くゝりて上りる紙くゝりまでくわのこゝかんぶ昆布ぐ
てもゝえぬるを思ひ巨燵に貴引て殿冬のそげ紙をも厭る半人の世ホ
いるざ敷くるゞ中ホも世遠ホーて拙義の寶紙のしるあ寶はて仲の綾羅錦
繡のうちホまゝひ生涯を何ひろしとて不自由なる事ホく終るもの有りまゝ
ロ紙をわろうて世業ホもろうあく甚遠ホあゝぎれ華ひたろうもしもん
ホうろる事ホく寒はて二十紙ゆわろうホうろるめむしろのうへ並木ホ下ホ死ぬる人
あゝ是等紙佛紙ホ宮去現生未来の三世ホ業因とそゝ宮去の霜紙現生
ホむくひ苦ひて果ろうる小用ゝ数ゝ現生の所感ホ未来ホ結縁ゝ

こゝに善知鳥つゝあり母子共に後世ふかく其報をうけて有りしその因果の道理明らかにして世界善と悪とも魂魄の二氣天地の間をたゞよひて世界間その生死業のいろ〳〵ぶりの程見ぐるしくてたゞ車の両輪のぬしと絶たまふまれば人間と生死うつる事つゝかくて世の宿縁よりかゝる事ども八あるべし八獄苦のたゞふさはしい畜生道の苦患をうけぬきしも天地一切の衆生死生ぐるる九氣のうふあれば云をいふんとも生ることあるべきぐるわりこゝに伏屋の長者が経文等姫君〳〵一の園を更に甚五郎剛仏が父母並に真孫弁去等姫君寂真村の悪徒善き長者が式矢六に言ふもとよりも相小仏新兎の小右衛門等あるい身賤より高きに小おのり貧ぐるより富ふいろ〳〵落魂はて不思の絶縁逆仁悪はて殺業の報紙〳〵死しかる者の逆霊〳〵ありて善知鳥の〳〵霊〳〵ありて非見れば

聖僧貧しきも皆是前生の縁縁善と悪との果小因て今生ふむこひ報ずるの理と不思議なる半神仏冥恵の天眼通紙りて察せられば見紙ぬ〳〵かふ去ることなく恩たゝ〳〵恩の法ふかあて此半恒白こりしかも凡恵いとう見紙きとふ沢てある事紙得んやこゝ小一箇のひる物語を述べ甚業因疎報の報かくのごとくふて終ふあるべきの小あ〳〵ぶ情の業紙弁ぎるる一目悪今の人を断りて善報をもとめるの縁へいろ〳〵遠紙未来紙ゝ〳〵や賜ふる冊の紙ゝ小紙熱なるがゆゑこゝ小毒ぶてこゝ小熱ひこゝ小悪紙ゝこゝ小悪業の報をこゝけこゝ小善報をこゝ〳〵てこゝ小善業の事縁紙ゝこゝと善悪ゆゑ〳〵ぶ悪ぶこゝ悪ぶの間小あるべし枫又恵ゝる比丘大臈の禅僧尼八男我ものゝ〳〵紙始元〳〵ておこゝひ〳〵ぶ禅智尼等の追善を吊ふ〳〵善先寺小精々るがはこゝ沢て白続ぶるこゝ小帰宿せ〳〵鬼ま法師ゆめ〳〵



あひだ昔のえのがうりふまへ滅法ばしとりく小義光寺さうく
くあるの門前町の後うと去るとうとまさくるる茶屋をりしめて明者
会仏の勤行いと丁寧ありるる山行り薩不の仏屋の長者が絶立
こて諸国諸州の法師比丘尼を招き三茶人の偽倡を供養し亡一茶焼
の市おびたゞしう志の法縁を行へきくて義光寺の客殿つゞめ切諸役諸雷
世話等紙名行人茶屋の人小頼ずんてこう小法きうのつとめ紙くくも別ち長
歩来のまゝて亡人くの善提すくんとこの事はを急りあくけるるが禅和尾れ
再去ひとさん世とてよく佛徑の道小もさしかる和ひう紙うつて上堂上人の
弘通の市庭席紙二度とも未席をゆるさせはひて別尼ぶ小女数
仏の法紙説めべと偽倡小ゆ徳会有て本縁拓月のおう号紙るるる和るく
も善光寺の寮殿弘通の間小紙くくこ尼女房のなあ小分別因果の道理と説せ

豊去未来現愛二世の業よりてハ三要のだくく紙のがんて往生得脱の門
ふ入るの統をかくくしもろふ女人の統法比丘尼の勧化古今稀なる珍事もう
とて愛織老婆おしうて我や先人やうとくふあゆくく紙をばるる
はしかうりう志うんが話を毎上の市紙ま八五濁六魔の軍とくどもう改
事ふく大意大慈の市場ま八五帝三傳の女人くうとも是紙赦ん人の慈
悲ふんが今諸衆生の徳成就もも説てなひ煩脳を断ぜばとて則ち涅槃を
得るとも我ひとりかくのごとく説ふ有漏のちはさうう無漏のまゝ三界界
の世世八わばるかり出ふ未来こ我一大事ふまと禅尼そ尼小衣と雑婆
うる答せくく佛前堂紙うゞ番紙撰て笑顔を仰りくふぐの経法を
経ふくの演説紙志のびて走佛菩の号紙を仰ぎてこふ安ぎたるべ
人を教ひ唱導教方の因行をあつえて因果報恩の物語ることとじまり

八万四千の経文は五十二部に分別因果報應の道理を説き出して人間
界に善の三つ有て修行せざれば悪の三つ有ると被仰せられ
の三つとは人間と天道と畜生
出て来たるわが身なりあうとは人間世界に生れて文武の神をかり人間世界に生
あるべき事なれば仁義礼法の道を学ぶ事かと云ふ
衣と食と住を求りて今日世間の稼ぎをはしまさ
れば天下をうる所の身祿を立て給ひ賢人の中興ふも
義行い善のの徳操をたりて立て給ひ善ある事は要と
云て世間の多言長舌は中しむるとも結の一りと教てこそ
一ふらのいの事は禁り悪いんふ一て色々が言ぶせうり人の
最第の行とも云ふ所ぞ世俗仏法一つ一て伝記して

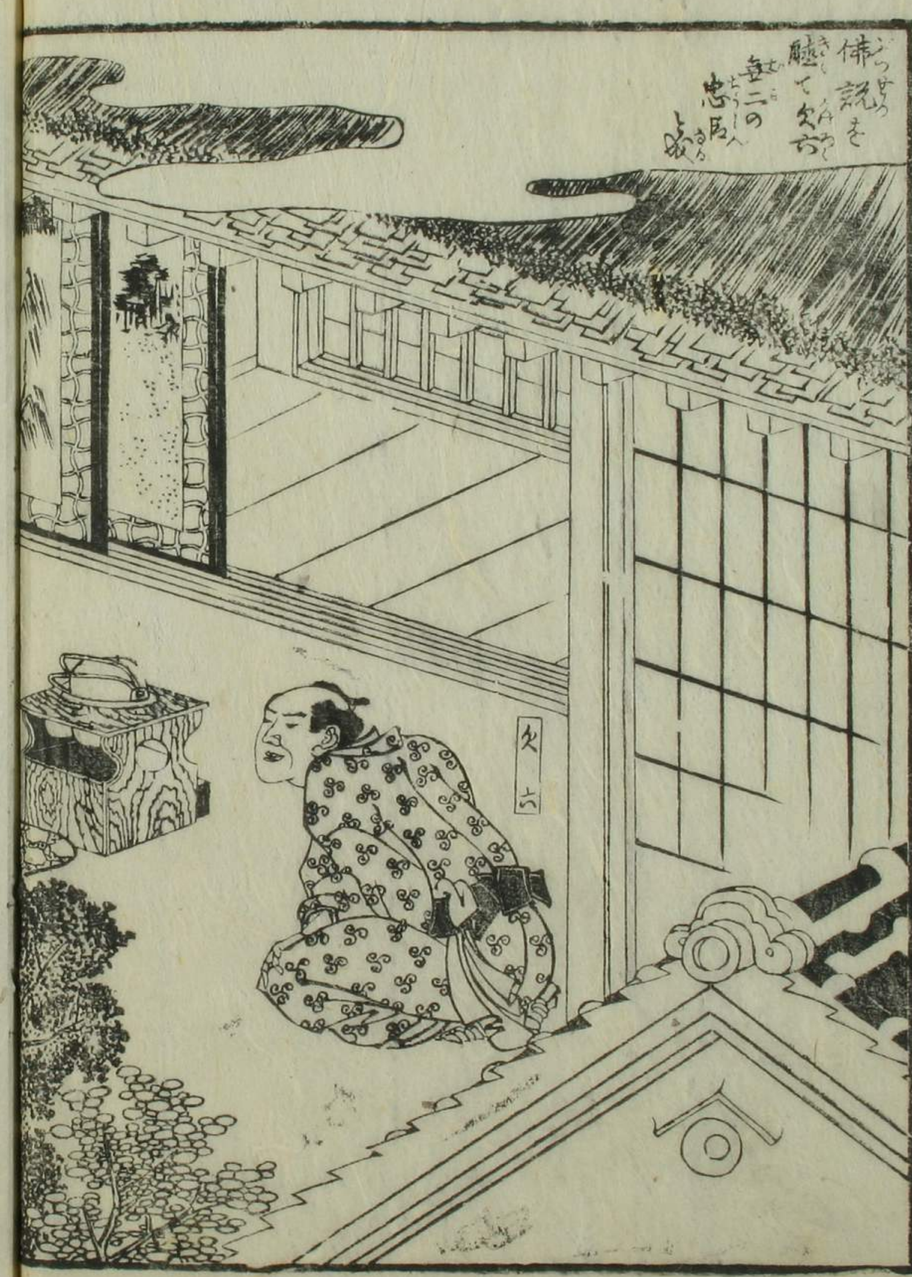
如来の御説示ふ言葉あるべきと知るべきなれば俗ぎ紙つして
むぜ紙実ふ一ん紙実ふて世わうふ言実の法をとふるのは幼ち甚
仏人間俗の人ふ一て世出ふ世ふ賢者ふも賢者ふ事ふ知り言
ふ人ふ一ふ一ぶ身の徳紙嘆ふ言ぶ一ふ身は徳を嘆ふ言
ふ俗中ふ已ふ一が魂ふ一ぶ一ふ何の子細ふ知ふ
世ふも至りてはむつう紙ふ知ふ事ふ一ふ何ふ子細ふ知ふ
げて見ぬ世の人ふ紙ふ一ふ武ふ道士傷ふ随ひて佛の御法を確ふ有
ふ紙ふ見ふ言ふ知ふ世ふ知ふ一ふ紙ふ知ふ事ふ一ふ俗ふ言ふ一ふ
人の人ふ一ふ人ふ物ふ知ふ一ふ紙ふ一ふ次第ふ俗ふ世ふ事ふ自在ふ俗ふ
うう言ふ知ふ一ふ事ふ己ふ物ふ知ふ人ふ自在ふ我ふ伝ふ一ふ俗ふ一ふ
知ふ一ふ一ふ佛ふ一ふ事ふ知ふ一ふ知ふ一ふ書籍

力をかりて意を智恵才覚に修すると是ハ是ハ善なり是ハ悪なりと
おのれと己が心にわかる佛の御法をさとしゆるされ是を是とよくしはする
かまそ正しき事なりと明白に分別なるが故に我慢豪情の浅はし
きつゝなる手術ざしき姿を思ひ見る他の見るらぬにかゝはらず
して其の心さだまる由なき己が魂をかゝる自由自在にハせざる所なり此心を
いはゞ柳の葉の動きざるなりて朝の心盛がれに憂ひ晝の心を行
夕べに持ちて次の事なるを知る事を毎くてうそ妄情しき妄りて
さてハわきまへなきわが身をすてゝ我心をとりのぞきてむかふる心
ありさまでハ之と同様にさとり得る事かなふべからずと気をつけ
かく見るがゆゑに佛となりて先達ハ我心より之を
ぎんぎあるべからざる事なりとてかの西天の達磨も学経を読ずして

我意を去りて我心を我が修行中にして九年面壁の座禅をし勤め極めし
自在に世の中を修行して始めてさとりの道をひらきて是を教外別伝とも
いひ文字を立ずとも云ひてさとりをひらき教化をして化かさせる
おのれが心より心を探るが故に我が法なりとつくりて理の人にさとし
是よりの文字ハ則ち吾心を書きたるが我心に志れ侍るとは
佛門に入りてもいふとも佛と同じ心にしてさとりも悉く得たる人なり
世間に人も気の志なるものをいふとはたゞの事なれども人よりも我心
なお世ハ志れざる所なり我気づかず我心より得さるものにかつて人の気を
知るべき世ならぬあらば己が気として他の気をやりて世に善悪の二つより
外ハあらじ人の心よりのハ聖人の修行中にも及ばず出るさへも欲
しれ人をも我も他人も同様のものなれ志らず我心に志はれなり

やまとだに他の人のくるも所佛のくるも所
なり得るよ智人なり佛のみとそ能
くるのみにて二ハあらぬ法なり佛ふも他人ありてそのうみ
煩悩をも持ち多いつれぞの五上宮殿の寶典をうけて善〻天上に命終
ち〻せ〻れ天道をかく〻身りて中ふ他行持戒の切徒よりて要会を
出離しかひて絶よい聖を世をるも作がれてうかうかく己をく〻ん
だせぐふ明ふふして後の道紙いるるに一切衆生の表紙ちりそれが
うよハ人情をひとりくふわちちえく諸の行よ在りうれだ相のんが
如紙法ふりて人の嗔をも知りて人を敬て人他を敬む事とする
是その仕の仕ふは」と是ふ法堅固の勤行とうハみるべ〻ちる上
ま人の脱を見ても俱よよろこび人の級なる紙そも俱よい心紙るげた人
のよれをう〻衆ど人のくふ紙うれ〻ふく人を思ひ沒人とをせど

事ふ障そも迷いど人ふ相をせんれて恨を上紙廉界ふせ法上紙あるく〻
ど為無紙常の振舞して事紙ちく〻身り世法を生実ふして物に
善要紙わち市紙ハ性紙を推量し性きハ事紙を相ひ外りをハ仕
を思ひ外りはちりて者ハ人のくふ紙ちり親ハるのくふ紙相ひるを
親のくわひひ兄弟夫婦友ぐちまで互よ思ひ相ひるとと真と言れる
道もやとを紙織よ事ちるもを仕をべ式身ひをの三つ紙修めて善
業紙いく〻ハ紙事ちりくるんで前の世ふもいるるがく〻ふ人有
て一生の間世界いるの善事紙つくふしも命終のきハふいくりてハ無間
地獄ふ落て無量の苦紙うるもあノまく生涯身口をふ悪事紙為
まひし実まくつくも死ての後ふ天上ふ異紙うけあるハ無上のたの〻紙
極る者もあるべ〻ハ行ハ所行の引業紙世ふ〻〻〻〻仏


佛說を聽て父母
孝二の忠臣
文六

のハ未来ゆゑ行〳〵引てゆく〳〵も後こゝの生ふあゝ〳〵を過去の所行のつゐ
ぞ所のハ引業現當ふりて来りてゝ小其命りと平安り具則ちその世れ
なりつ所の幸福羅得勢を所と熟せざるゝの果よあまべ佛智の不思儀甚
麗の妙智力紙りて清減きる事あゝぎる所多〳〵されど神通の智力ふ紙
て六宏第一と唱られ多かる門徒等者なりても善人の悪報をうけて悪人れ
善報ふ果紙ひゝて紙ぶりなれ人ど尋常の者の是紙明ゝ考るべき所
ゆへあゝぎる形り考ゝれハ善形を捨して善実の縁をうけ入ハ不幸の
縁よあひぬる善悪の報ひ非正の果過人るとして悪ふ過るゝあゝぎる所
り人氏宏報の道紙ゝ明ゝあてんふゝ考ゝれハ善富を妨悪とる
の悪病を斷ぢる運命の程ふ迷ふことを是明ち時道の善通
ふゝて智證の思性るゝと物縁ゝる所ゝ紙ゝ善ゝの人ど是紙きゝ〳〵悪人を

ひるぶゝて善ふふたちかるゝ所の程をさゝ〳〵ゝ佛恩のゝ紙を報謝
きゝ所事ゝゝりゝ〳〵ゝ人数の中ふ交りて仏座のゝ代久方ふ確ゝゝ
所の悪をてゝ人ゝ懺悔して後ゝの縁を所を無ゝんぼ紙ゝるべゝて善二
の忠義をゝ世ゝ〳〵ゝ所

古桂の来歴

ゝ〳〵伝濃国更級郡姨捨山ゝ善氏経屋敷桂の本ゝ時伝の古
ゝりの伝傳てゝこの木の根ハ常ふ神人のゝみるゝありて不思儀ゝる事ゝゝ
たびゝ所ゝりゝるゝ所ふ〳〵天代の平治ゝゝる枝ゝ葉ゝゝゝりの同じ樹
ゝる村長と共ふ更級ふのぼり桂の白ひあて考所ふ所ゝ〳〵ふ
一枝ゝゝと考ゝゝゝれゝ枝ゝゝて家ふゝりて弁
旅等紙用ゝ〳〵村長をゝ世ゝて山の頂をわけて桂の本の根ふのぼり

さかるべき枝紙切りて人と丹木の中程まで折りつるに二股は出で侍枝のく
その廣さ凡五寸と数へば五六枝へゆるくしきあるべうつるが其もんてくる
めりに光り有て見くぬき拭ひたるに毛も長く毛根の多き出でうつ
そも如何するらんとはや美濃人をば任せ給へ紙かくせ侍
所ふかや松と松ひつぐる折しもいとうるはしくとりもの毛をもつ
ぬるに紙をたるのかをりもさる毛の角ばそと風ふつまて来るがその風の冷
やうの事なれども殊の暑さ堪りがたく雪の如
ふ流れるがめくるれば枝もそれやたく中ふあ〜ば早く切りて人を枝
る紙をけて切りさまを紙を毎れだるやきり一面をはそれ部りて村長
いづくふあるや文まるもわるうしてかしして中紙中ふ切りの中忘る
地を斧の柄の紙をたるが膏の紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙

中〜毋くま地を忘れるくるに紙を光ばもがぐ義捨てしてて紙をり
来ぐ〜〜行て村番のほ〜〜ほるふんぐ紙てをと見紙をるれ枝も
村長も医師まれて番のかけ医のをりふかの種の赤紙を形〜中五寸だ
うをるふ庭に長〜人ばかりまを子の中ばり二人義の光を侍てを
たびは見合せ見紙を見ぎ〜て家ふう典りるが寂寞特の
昼間の北東ばが秀来ぐ〜ば切も来ぐる夏山ふわけりか移て庭〜紀樹〜れ
めぐ〜さかるる紙いとひるぐすてる移れが来ぐ義木枝枝もが形とをる
来を見めぐり庭がう紙をとりふ人来をたりふ〜りて冠が嶽〜るまはぐり
てをまふ食紙をぐてなる来紙を侍は横捨山の国南ふのをばまふ〜
形は大いなる樹の中程どより二股まうなる一枝未申の丑むざとれて音
ばりかを年久〜山ふ赤紙〜つまどもかを侍大木のあり〜る紙も紙

をまくれて枯木し成ぬるこそ幸なれとそ木うやなりけて答ふ下りけるあ
ひなりとて考ふたるに人もなかりける薬師ほとけ等につゝぬきえも
やれさるものなりしかば此木をきりたるに家を傾きる
迷ちぐ〳〵狂乱の長者ふあひて黄金まうけれども無の国てもぢ成れてしにけるを
こゝ体の神のまはりにはきる神木をいとぎ切て壹つのつゝき黄金ハ出しふる
色して桂の枝を山ふ持行かしの木ふ相ゐ来る体うゐわびにて居をろし
ある石巳の化桂やまゝど涙ふむせびとらうそ別れも実ふやとふ有りしとも
なるよりの仏事弗事ふぐる借書せば子細あるはじとて長伝するふ山ぞ世ぞはる
らぐ体の猶ひとるなり先まぢて涙山の巷谷ふ事を体ふたまひ
ありてさわるとなれはなりなりとの事を聞るとふハなりぐ体
ふ昔ふなる為しふ有りるとふ農山とふるなれうねのそとりまふ一の

谷あり日でるふ水ありて雨ふるとなれはその水さゝふふる山谷ふ大樹の根あり
わるり十人の人をあゝして枝葉さばりの海苔を採ひ雨事ふもそめうげふ谷
ふなれハ雨露を浅ぐのれたるみとふ時ふ鄙郁とふ人のなり是切て家の
うゝぞうふ女人事成ひたるみふ山事成ハ人ふ人ふれハ巧匠のまゝ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵葉
樹をむけ〳〵体ふ木ハ棟梁の関ふふ無ふふ神有て豊成ま
らふまとふなるとふ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ふ体ふ木ふ神有て豊成ま
ふ〳〵ぞ〳〵鄙氏きふ山ふ家成造りたまふとすむ
ふ〳〵ぞ〳〵の樹木をふ〳〵家成造りたまふとすむ
てふ岳度へ物語して是ふ振ふ三人の根を殺せり絶ふ人の殺をまふ〳〵
出ふ〳〵ふて棟梁の関成ふ〳〵ふ目れ成ふ〳〵ふ棟梁ふ動して止事ふ〳〵ふ
是ふ家成ふ〳〵ふて成ふ棟梁の五成ふ神ふ為ふ〳〵巨梁の柱ふて洞ふの
ふあり〳〵ふ鬼毛新志ふのせふ〳〵ふ棟樹山の古樹ふ成ふ体ふ神ふ

霊樹を切んとして夫男を
海辺に墜つ

宿しかりけん不思議なりける事どもなり

伏屋布施屋の由来

新古今集小坂上是則が歌主をたずねてやはせやまねきはく紙のけり
とよみてあるは武蔵の国の名所なりひらせてこれをみる
歌なりさる紙薗氏の長者とつかへ書りとい鳴き農夫こそつりつれども
非見のんをもんく紙女の者小悪種をまれ卯富を家にかりさかん
なりこれども悪種の紫国をふる孫小伝へてあるは紙業の孫り紙なり
ゆしと紙袴ひを家まる紀せ事ひとま祖先のよ孫かざ屋ふる和
今世まその因果既まてるをとを流まるよ事といふりなきるまの
長者ゲ家を伏屋とかの興とい業世筆の草をけりてふせ

家根をふくいそで苫でなどふる事なりひるしたるれど長者ら
家の名はふかくそびわくなきやあれの家ハ屋敷やあるべもとく
ふせとふ人事ニ苫集小廬の宇ハ刈ー敷せとふ屋まと田庵とかき
ふせどせもしまり奴ま鄙舎の名ハ屋まも事ものーなふせと田畑
ふけるなるなる猪猟のおとし小屋紙ーてーてせ紙などふ人もこの奴
せやとふ人言葉ふり出ふふふりす長後長者ふ亡者遊芸の事紙ものと
ものて伝伝小多ーくの事稚をいくー雑隠宛等の雑ーふ和よびをを食飛
人後因者頂徒田國の術行者ハふもくーふて雅人ふもまくふ紙をつまゲ
き銀鏡をかくるの宝ま老弟男女の差別をわっなどとと市稚絶行を後
世のもふくーるを猪人長紙ふどげるくちひて皆布施屋くとの人を稲
ふる長刈ち薗氏ゲ長者の役又ふ事ーと寓力月とふ遠福長ハ刈和の山の

難波の江の石河原よりおこりて又園をまとうて流れを付る寂莫村の善右衛門紙も
志づをを西京紙めいて細くてなる家の亀陣を消滅せんがゝあるを緒方の侍伝
を拔きして三万余人の銃行せしを旅法會社よりこれを聞あぞ
あり給ふ志うてより先小坂上の是則ら弄よりそ妙せやとあり
名言祭八弟よりなるがゝ叶國をたゝわるを子の国家をさして妙せやと
中ゝひしよりその掘をとりて是則いかゝうて弄いよみ名あんたんば亀
やの文字八唐屋とかきて紙屋とかゝるとゝ破と文言を紙千早振
うけるを同じくしてかなる文字を真名字紙ゝなる我日本のまゝハしゝ初
亀しゝんで今伝傳國善光寺の書姫用八氏姫をさしゝ
ふして由来をかゝのゝ志るを同出里ゝ山をかの長者ら紙ま
なく月紙を宿をたゞかりのわたんあ紙残して昔祭りをりるを紙社

有板八ゝをゝ平も〻えわるゞ法有為結変の世社ありを法母帝とゝ也
里あるゝ〻ゝ平を唐土まで也樣ぎ傳を裏をがうてるも庚華ようゞのんて
蘿蔔のなるを小蹴紙ふゝうけ蜀山の巍くなる宣樓かりとゝゞも国家の烟
ゝゝのゞうて流水の四方よりる社の白ゝるがめも残ゝざりと世
の文人等紙あさんて紙鳥紙ゝゝ紙時弄紙情を言社垂紙とゞめてそれと
昔ふかゝゝざ傳りの八只風雲社月のうげ紙らがきて田毎ようの岩り
ゞかりハ長者ら世ふある杉ゝも分て初めの極ゞかゝゝざりつるのをと
ふ牡鹿よ笠紙ゞゞせるをのゝてる松柏のゞゞけて五新とり蓼田の変
て海とうる半紙ゝど紙ゝざ傳ゝ知ゝるゞゞ

嵐の社の縁記

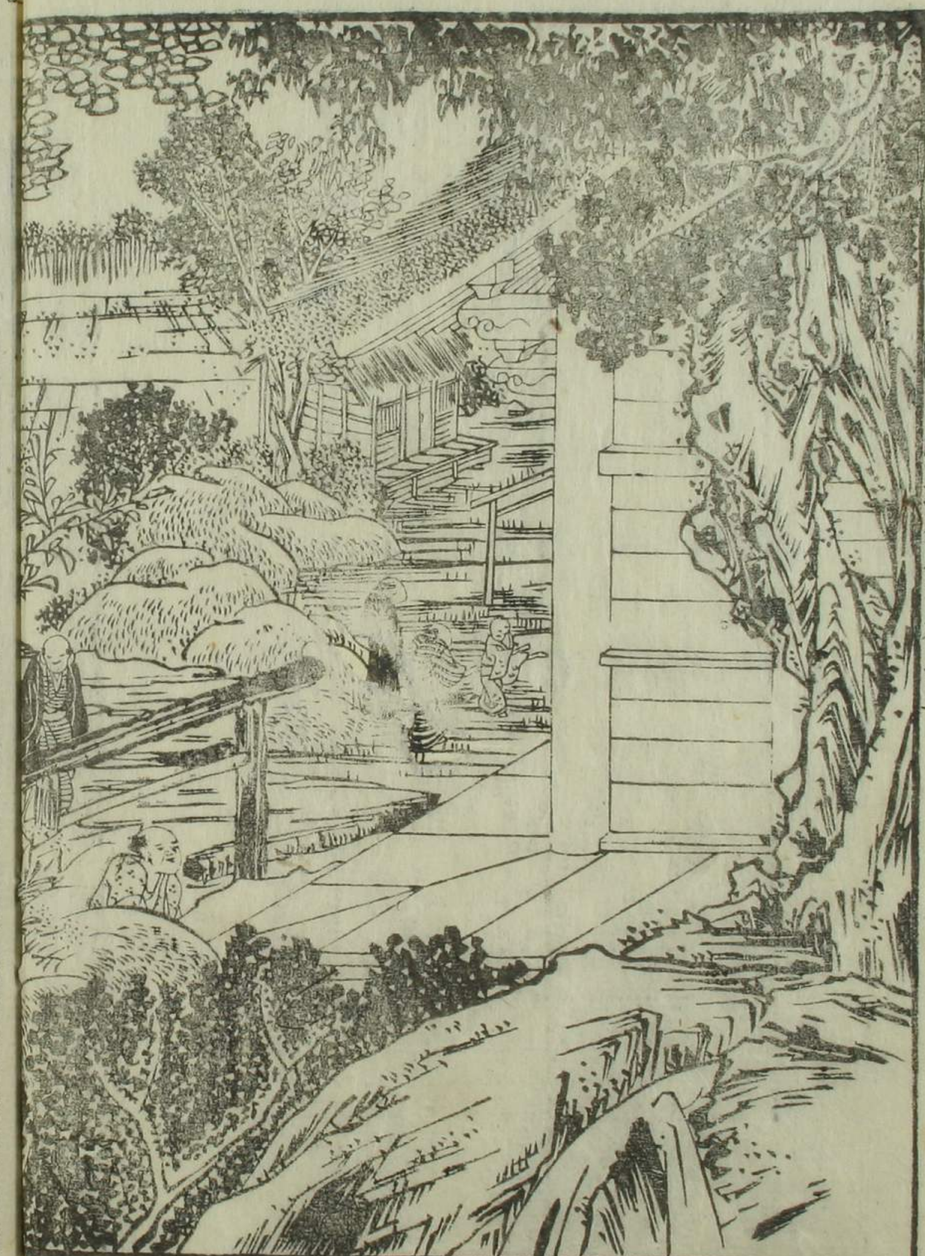
ゝゝふ嵐の宿ふ嵐の社ゝの人ゝそ社ゝゝ大星天ゝあり来りて里人

甲斐の国の[illegible]社の[illegible]きの元祖まちとりの[illegible]ひとつの鼠紙彫るが丹波の鼠よ
ろず[illegible]秀和とて人形師なりて
[illegible]人名[illegible]別ち山社の納めの紙とふん[illegible]ある
紫八[illegible]額[illegible]熟して後[illegible]土の鼠[illegible]本ゐて鼠紙彫てな
[illegible]八[illegible]馬[illegible]面等ゆも鼠を[illegible]世[illegible]鼠の社と号して大[illegible]天の事八[illegible]
[illegible]ゆり[illegible]は古発の[illegible]ゆる紙より[illegible]社[illegible]ゆりとゆ[illegible]れ[illegible]寂英村の善
[illegible]の霜の孔雀の孔を遠[illegible]
[illegible]ゆ霜が[illegible]孔[illegible]性質ゆ威[illegible]て古鼠その[illegible]毒を知り[illegible]長
が[illegible]紙[illegible]ひ[illegible]紙が[illegible]鼠の歌をうけて狂死[illegible]
[illegible]の毒氣[illegible]中より[illegible]歌の鼠[illegible]て人ゆ言紙る[illegible]返[illegible]
[illegible]人社を[illegible]て[illegible]今鼠の宿より[illegible]町ばかり南[illegible]

小山の[illegible]松六七年[illegible]社あり是紙元の鼠の社とゆ[illegible]
ゆ霜が霊紙[illegible]

猫の祠社の事

蘭系の伏屋の長者が祖父曾平[illegible]て夫婦悪[illegible]
[illegible]金銀をむさぼり[illegible]利を用[illegible]
家紙[illegible]て長者[illegible]の元[illegible]金八[illegible]
常姫[illegible]げんとて持参し[illegible]
金[illegible]
その怨念と佛[illegible]紙むすびみて死後ゆ猫のゆ[illegible]
狂死孔雀[illegible]依てひとつの赤猫の形[illegible]赤金紙りて[illegible]と云名
工ゆ[illegible]て祠を建て是紙長者が[illegible]ゆ今ゆ[illegible]猫の祠こと



有り[illegible]長者[illegible]郎と[illegible]
をひるがへして正直実素をもつて家業[illegible]
人を驚むがゆへ[illegible]して三十九歳にして男子を
さへもうけられず是ひとへに朱の恵護にして家の障りの業にふ[illegible]
くるのきざしなるべしといへども仁義の道を守り孝悌忠信の行ひをわも
きざで人を教て善道をもつぱら学文所をけうりて書の精をあつめ国和
を化し民和げ[illegible]伝[illegible]
繁栄せしめ[illegible]
蘭東の学校[illegible]
始[illegible]
[illegible]所を建て[illegible]

月宵鄙物語後誌巻第五大尾

見せ[illegible]相続せしめかやされむ世に豪富長者と称ぜ[illegible]の軍多く諸
州にありとへども無益の奢りに無益の費ひ[illegible]散ぜんよりは学文の道に
入て書籍等のうけ[illegible]を補ひなば甚だ文盲なりとも人に長ぜ[illegible]
の徳廣を形るに依て子孫長久なるべ所あるべ[illegible]

編述　挑華園三千丸

畫工　柳齋重春

傭書　松徑堂十六

文政十一歳子夏五月　上浣發兌之記

東都　通油町　鶴屋喜右衛門
皇都　二条車屋丁　本屋惣七
浪華　心斎橋唐物町　河内屋太助
同南久宝寺町　全　直助

下谷徒町　吉田書屋

○前川文榮書閣新刻略書目

圓陵宮田先生著

皇朝戰略編　半紙本全八冊　定價金壹圓五十錢

此書ハ天慶の始め平の將門が亂と東國に起せしに始り近く寛永の末島原の賊徒西海ゟ殊滅せられしに至る迄前後凡そ七百有余年の間名將、勇士、公戰、私鬪、豪傑、英雄、奇戰、妙略、跡の法則とあるべきを數多の史乘より撰ミ出ス武學の用に備へたる者にして實に兵家の龜鑑たるべしと云つべし名將の勝を製そる術を覺り國家興廢の由る所以を知るべき者は此書に如かず

照陽高見先生著

續皇朝戰略編　半紙本全五冊　定價金七拾五錢

此書正編の世に行なる、日月に盛おゝ然れ共未近世の戰略を記するに至らぬ故に先生新ゟ續編の著あり其記そる所ハ文化年間魯西亞人の入冠に起り大塩れ亂烏關鹿兒島の砲戰大和及ひ生野ハ戰ひ水戸正奸黨の亂長防の役戊辰の初伏見淀川の一舉上野の戰爭甲、信、武、總、野、北越、奥羽、函館の諸役佐賀台灣ハ征討朝鮮江華島の捷ゟ至る迄大小の諸戰を記して洩すことなく陸海軍諸公の英武勳功各鎮台の偉烈等詳かゝ記載せり若一回卷を繙らゞ手の釋るに忍びざらんやす四方の君子幸ゟ顧み収く其奇書たるを知り玉ふべし

清原重巨先生撰　清原重光先生校

草木性譜　附草木有毒圖說

奉書摺大本全五冊　定價金三圓

該書ハ山林田野に生する草木、花實、葉根と微細に寫眞して毎畫着色其眞を顯し目前實物と觀るに均しく加之記るゝ滋益、有毒、氣味、性分を舉げ和漢れ名稱出所と詳述したるは百物推理の方今與產家と始め植物試驗藥劑鑒別及ひ製藥家に於て此書其參考に闕くべからざる要書也

丹陰莊門熙先生編輯

新編詩學精選

小本全五冊　定價金七拾五錢

此書ハ四季及ヒ雜部れ五卷に分ち上ハ日、月、星、震、風、雨、霜、雪より下ハ江海、山川、森羅萬象、宇宙細大とゐく凡う吟味に屬する作題ハ勿論晩今祭典、漕船車、電信等其尤も新調に適する珍奇雅正の作題と附して洩さゐとゐし其體裁たる紙面を兩段ゐ罫別ゐ上段に熟字を掲げ下段に韻礎を置き每題和漢名家の絕唱と稱する作例を挿み且つ平仄譯假名と叮嚀に註明す是を以く刊行以來詩作楷梯の良書と呼れ江湖に流布するゐと既に萬有餘部の巨額に及べり重刻をゐる再三編者の榮譽書肆の僥倖深く感謝する所ゐり伏て願くハ江湖の本書新識の吟客其經言ゐらざるを推し最寄書房に就て御購閲あらんことを企望す

丹陰莊門熙先生編輯

新編續詩學精選

小本全六冊　定價金壹圓五拾錢

此書正編ハ四季を主意とし編次す故に他の景物に至りては漏泄の失あらんゐとを恐る是ゐ因て天文、地理、人事、器賦、飲食、草木、百花、菓品、禾蔬、飛禽、走獸、鱗介昆蟲の十三門に區別ゐ其體裁を專ら正編の義例に倣ひ只管に作例を增し下段に後輩先進の五七言句及ひ聯句を掲げ置たれを吟場墨圃は勿論書廟雅筵に提携すること便利に ゐて其功最も多し實ゐ正續兩編連理して無瑕完璧ゐる良書と云ふべし凡そ詩作に志ある諸彥の清玩とせば其攀援の助を爲すゐと少小ゐ少ず伏く請ふ世に慢然散布する詩作の諸書と同一視するゐく卷を繙て其金玉ゐる全本を知り玉ふべし

竹涯莊門熙先生編輯

詩韻含英異同辨增補以呂波韻大成

折本銅鐫全一冊　定價金拾五錢

此書ハ從來世に流布する以呂波韻より一層字數を增し冊首に時令及び花木、禽獸、鱗介の異名を載せ次に詩韻含英異同辨より平仄韻字若干を摘要し只管に詩作初學士の便益に供す世上に類書數多刊行し就中異編同名有之此書需めらるゝ諸彥と莊門熙編輯の以呂波韻と稱へ最寄書肆にて御求を乞ふ

阿陽堤大介編輯

一辭千金詩文幼學便覽

橫本銅鐫全二冊　定價金卅五錢

此書ハ四季の景物花鳥風月等の部類に分ち熟字若干を掲げ平仄譯假名を丁寧に註明し實に詩文幷用の便益に供そること聊か表題ゐ不違珍書ゐり

明屠赤水著　東溪源謙校

考槃餘事

白紙摺明朝綴帙入小本全四冊　定價金七拾五錢

此書ハ支那歴世の書畫古法帖等の評論及び金石鼎彝文房の諸品盆栽瓶花香爐茶酒琴服等一切の事物載く洩すことなし且り其品物の眞偽精粗と辨論し或と製造試擇と修飾との諸法と參記と實に文房賞鑒家必用の書なり

順堂奚疑先生著

書畫皆宜 白紙摺明朝綴小本帙入全三冊 定價金四拾五錢

書家必用の小冊諸君子常に机上に備置き玉ふて其の辨用擧て謂ふ可からず書題畫題と始と一絶句聯句ハ云ふも更なり堂亭又と館園の別號數字類ハ至てと諸家の妙語を選て漏さず記しれば該書と披ひく其自在を得ずと云ふことなし苟も書と玩ふの諸彥必携有益の書なり

吳縣顧祿鐵卿撰 日本名居安原寛得衆校

清嘉錄 半紙本全五冊 定價金七拾五錢

唐土の年中行事其國の風俗人情と詳載し民間の景物と精す學問の助となり詩文を作るに甚だ益あり

宋林洪著 元羅先登著 吳縣顧元慶著

正續文房圖贊 白紙摺明朝綴大本帙入全二冊 定價金五拾五錢

○附十友圖贊

此書ハ支那歴世の文房諸品筆墨硯紙等より茶器香具の文房と屬せべき器具百般其圖式を摸出す雅文贊辭を載せたる珍書にして文士雅客と更なり賞鑒家にも必用の書なり

近藤守重編輯

金銀圖錄 半紙本全七冊 定價金壹圓五拾五錢

此書ハ往古よりと近世まで我國通用の金銀貨幣其正品と摸し品類を區別し着色して凸凹とも其まゝ顯しれれハ實に其眞物と視るハ同く且位格時代年月相庭等と詳記ふたりと銀行を始め經濟家有志の必閲たる書なり

南陵富永讚撰

茶器名形篇 半紙本全二冊 定價貳拾八錢

此書は聚樂窰の家祖吉左衛門累世の系譜其造る所の茶碗及び指香爐花器等の圖と擧げ其傳記幷ひ價位を附し購讀主の姓名と記して遺憾なからしむ苟も紹易の下流を汲む人は必ず其座右ひ闕可らざる書也

秋山仙朴先生撰

當流基經大全 大本全三冊 定價四拾錢

此書は本因坊策元の直傳と記すもれハしく諸家の聞書圍碁石置れ必得より都て秘傳妙術と惜ひ記錄しれれと圍碁と嗜む人は勿論假令ひ初心の人と雖も此書に據るときは晋石定位の法を知り變化臨敗の理とさとと易く所謂定石しらずの域を遠脱するの善本なり

丹陰竹涯莊門熙先生編

墨客草園 白紙摺明朝綴帙入寸珍本全五冊 定價金壹圓

抑も墨場ハ携帶して臨摹ひ充る書多きと雖も草字と集めて雅趣れ求索に適するもの少し夫れ書は古人れ筆法ハ據らざれバ一點一畫筆を下すも婉雅なハ況んや草字ハ於てとや編者此ハ見るあり是を以て歴世十朝(漢、晉、宋、梁、陳、唐、宋、元、明、清)草聖の古法帖中最も純粹なる者に就き片冠の引法ひより編纂しく六卷ひなし墨場必携の用ひ供す乃ち古人を一堂に聚め手ひ執り心ハ談れるの快とおさしむる書ハして例之ハれを學とさるも幸に愛玩し玉はゝ、家雞野鶩の俗體て脱し老顛狂僧の風神に入るも抑また遠しとせず是に於てや謹て江湖の草韻家に告ぐ

移石原田先生摹古及加筆

國畫芥子園畫譜 半紙本全二冊 定價金五拾五錢

方今文苑畫圖の書冊皆ハ机上の簡便と競ひ江湖に刊行するもの多しと雖ども國畫の書に至ては未だ完全無闕なるもの蓋し多ハらざるなり今斯畫圖の如きて古今我邦畫工の巨擘三十餘名家の揮毫なるものを蒐輯しん物草木走獸飛禽百花魚介の六譜に分ち只管に唐刻芥子園畫譜の躰裁ひ效ふ之に憑ひて學

べは初學の士筆と下して其礙滯おきに至らん假令之を學ばざる君子も幸に愛玩ぶたまゝ鬱愛心を轉じ爽快の情に移らしむる珍書なり

越谷吾山先生輯

諸國物類稱呼　半紙本全五冊　定價金七拾五錢

方言　右越谷吾先生我日本國中經歷の際其土地の風俗人情より一郡一邑の訛詞迄委しく記載ぶく天文地理人事服食草木花果菜蔬飛禽鳥獸獸魚鱗介昆蟲及言語の諸門ゝ分編して間々名家の諸國訛詞入ゝの唱歌狂歌連俳狂句等を挿みし古人未曾有の珍書なり

大瀧永常先生著述

農具便利論　半紙本全三冊　定價金五拾五錢

此書ハ耕業に益ある諸器械を集錄し其便利を評論して近來流行のポンプの製作までも載せ記したれい農業の諸君に欠くべからざる寶書なり

天狗房花鷹大人編輯

佳花餘薫　珍珍文粹　寸珍美本全一冊　定價金拾五錢

戯作者の巨擘馬琴京傳春水三馬等の諸先生と始め三十餘名家の最も面白き文章を輯めし小冊子ゝ傲したれい狂文を綴るの御手本とおるべき小意氣ゝ書也

四季戀雜狂歌題林抄　小本全四冊　定價金六拾五錢

江湖諸大家の狂歌を東都ゝ名高き狂歌房主人が撰ハれ其上へ題毎ゝ枕詞及ひ珍詞ゝ大寄に掲載せられ去頗る滑稽がゝたる古今未曾有の珍書なれゝ世の風流粋客達是非一部ハ御進め申ゝても御求めあらんことを乞ふ

契沖阿闍梨家集

漫吟集類題　中本全四冊　定價金七拾五錢

契沖阿闍梨ハ歌讀ゝの大家ゝるゝ而其道に遊ふ人のよく知ゝところなり此書ゝ契沖阿闍梨の家集ゝして

四季戀雜并に富士百首長歌等各々類選にしゝ一代のよみ歌を洩さゞ五千餘首をあつめし大秘書也

富草屋大人校正

袖中大和詞大成　寸珍本全一冊　定價金拾壹錢

無益の詞を去り當時用ゐることはを多く增補して附錄ゝ歌の讀方を出ゝ歌學初心の便利の小冊子ゝす

建綾足大人著　早川廣海大人補

增補歌文要語　小本全三冊　定價四拾五錢

古事記日本記延喜式和名抄萬葉集伊勢ゝつぼ源氏おちくぼ竹取そのほか和書物語等の詞を部類に分ちて註解ゝ加へ出所をりけし信切ゝ書おれは和歌連俳ゝ云ふも更おり和文綴るゝゝ便ゝとおる珍書おり

芭蕉七書　小本全二冊　定價金三拾八錢

此書ハ行脚掟○二十五ヶ條○十六篇○句合○嵯峨日記○奥の細道○發句集等此の七部の蕉翁秘書を合刊ゝて同じ道に遊ぶ人の便ゝす

芭蕉附合評註　小本全四冊　定價金六拾五錢

翁一世の附合集蓼太の撰ゝみゝかゝゝと委しく註解ゝて好者の爲ゝ其意をさとゝやすくゝ

俳諸李寄たね袋　懷中本全一冊　定價金拾八錢五厘

凡ゝ俳諸初心の手引ゝなる書數多ゝりゝ雖有來にて便少し此季寄本は四季詞草木鳥獸及ひ月の異名年中行事等都て註を加へ俳諸式法發句仕樣附句の用捨其外極秘傳故實ゝ出せし初心必携の書おり

思之中村貞寨述　博愛奥田頼閲正

頭書類語小學作文教授書　小本全五冊　定價金壹圓廿五錢

○初等科(一ノ卷)(二ノ卷)一ノ卷卷首に俗文要語活用問答、合正誤文、俗文復譯法等ゝ掲げ次に日用單簡文百余章ゝ編ハ○二ノ卷卷首に俗語若干ゝ掲げ次に四季贈答文、祝賀、悔吊文、電信文、公用文諸証文等數百章ゝ載す

中等科(三ノ卷)(四ノ卷)(五ノ卷)三ノ卷卷首に作文要字和解ゝ掲げ次ゝ雅文に俗語ゝ挿ゝ僅に三十字內外ゝ以ゝ一文成す○四五ノ卷紀、記事、論、說、題、抜、傳、序、祝文、吊文、祭文等數百編を載ゝ

南泉中村貞著述

開化農商往來

半紙本全一冊　定價廿二錢五厘

此書ハ農商家の心得日用器具の名目等ヲ掲げ尋常の農商往來と異なり專ら暗誦に便あらんため五七句調ヲ綴り且習字にも用ひらるべき筆耕ヲ撰みたれハ世れ兒童一本提携ヲ以て其裨益ヲ賞ヲ玉はんヲ

西敬著書

畫圖入門

横綴本全十冊　一冊ニ付　定價金拾錢

西先生ハ畫學に妙ヲ得らるヽ諸君の熟知する處ヲ今茲ヲ贅言せず此書ヲ中小學校ハ教則ヲ基き編述せる書にして直線法○曲線法○罫畫○紋畫○器用物○家屋○花草○果物○禽獸○人物○等ヲ顯し順序宜きヲ得彫刻鮮明ヲ以て教科用ヲ適當ヲ書ヲ云ふべきヲ請ふ世に慢然散布ハる畫學の諸書ヲ同一視ヲるヲ卷ヲ繙て無瑕完璧ヲ見ヲ知ヲ玉ふべし

西敬纂譯

畫圖入門　幾何畫法　近刻
同　透視法　近刻
同　按影畫法　近刻
同　三部圖式　近刻

此書ハ用器畫則ち幾何畫法投影法透視法等ヲ詳述せる書ヲ以て教科用適當ヲ書ヲ勿論用器畫ヲ畫字中必要の科にして各府縣教則目ヲ此科ヲ有るも未だ發兌れ書ヲ見ヲ依く教則の順序ヲ隨ひ此書ヲ出版す故ヲ只教科用のみヲらず工藝家ヲも必讀の書也

鷹巢房吉著述

新選普通作文必用

中本全二冊　定價廿五錢

手紙ヲ認めるに解り易き爲同意味の記かへヲ澤山ヲるし萬物の類語文章のイロハ引ヲ職せ日用文ヲ若干掲げる重寶の書也

鷹巢房吉著述

新選普通女用文章

中本全一冊　定價拾七錢

此書は婦人郵便はがきの認め易き短文ヲ年始狀ヲ始め種々の雜用に至る迄都く余章ヲ掲げ頭に一々其文の類語ヲ載せ容易に作文ヲ得べき懷中便益の小冊子也